



## 杏林薬膳橋井

中医学にはよく「杏林」・「橋井」などの言葉を使います。その言葉の由来、また歴史の中で有名な医学者・著作を連載して紹介します。

# 中国から到来した神農氏

(連載 最終回) 順天堂大学医史研究室非常勤助手 陶 恵寧



## 2. 湯島聖堂の神農祭

毎年11月23日(勤労感謝の日)、東京都文京区にある湯島聖堂で神農祭が行われる。神農祭は、孔子祭、先儒祭、針灸祭とともに湯島聖堂の四大自然年中行事の一つである。

神農祭は戦後の昭和28年(1953)から湯島聖堂斯文会が主催し、神農奉讃会(当初は神農史蹟礼賛会、現在は日本東洋医学会、日本医史学会、東亜医学協会、日本漢方協会、日本漢方振興会、東京臨床中医学研究会などの漢方関係団体や文京区薬剤師会、神田薬剤師会などの地元薬剤師会合計13団体からなる)の協賛で、毎年行われるようになって、平成18年(2006)は54回であった。去る平成18年度の神農祭の式典は午後1時から、聖堂の敷地の奥(東北側)にある神農廟で始まった。まずは神田明神の神主の修祓、祝詞奏上があり、次に、斯文会常務理事であり、早大名誉教授の村山吉廣氏から祭文奏上があった。その後、祭主、奉賛団体、来賓の玉串奉奠があった。最後に一般参加者がその日のみ公開される「神農像」を拝礼した。式典のあと、恒例の記念講演会は千葉大学和漢診療学の寺沢捷年教授から「神農本草経と傷寒論の成立をめぐる」と題する話があった。神農廟に安置されている神農像の体内は空だが、その蓋である背扉の内側に由来が書かれている。寛永14年(1637)徳川三代将軍家光の発願によって雑司が谷に薬園を開いたときに彫られたものである。木の切り株の上に座り、右足をあぐらの形に曲げ、左足は地につけている。右手は先の丸い赤い鞭をもち、左手は薬草をもち、口は草をなめて毒見をしている姿をしている。

## 3. 大阪の神農祭

大阪府中央区道修町(どしょうまち)は古くから薬種卸問屋が並ぶ通りで、国内外から薬種を仕入れ、吟味の上、適正価格を付けて、独占的に全国へ流通させた90%のシェアを持つ元卸の「くすりの町」であった。今でも、武田、田辺、アステラス、塩野義などの大手製薬会社が並ぶ全国的にも有名な町である。

江戸時代、薬の検品をする和薬改会所が検査の正確さと神の加護を求めて、安永9年(1780)、薬種中買仲間の親団体「伊勢講」が道修町仲間寄会所に、京都の五条天神宮から分霊を戴き、日本の薬祖である少彦名命(すくなひこなのみこと)を、以前から祀っていた中国の薬祖である神農氏と共に祀った。中国と日本の神様と一緒に祀っているのは珍しいことである。日中両国の神様は江戸時代より、この薬の町と町人および薬業界の守護神となって親しまれている。

「少彦名(すくなひこな)神社」は月次祭もあるが、感謝の意を表す毎年恒例の大祭である「神農祭」は、医薬品のメーカー、問屋が参加して、全国からの漢方医や薬局、薬剤師も集い、11月22~23日の2日間にわたり盛大に行われている。

神農祭は当初9月11日に行われていたが、明治になって旧暦から新暦への変更したこと、コレラの流行等種々の事情により、明治10年に現在の11月22~23日になった。また、10年毎の節目にはさまざまな記念の行事を行う。大阪の神農祭は昔の「町の祭り」であったが、盛んになって、現在の「大阪の年中行事」の祭りに発展した。「大阪の祭り」は1月の「十日えびす」(戎祭り)で始まり、11月の神農祭で終わるので、大阪では「とめの祭り」とも呼ばれる。

お祭りの日に販売されるお守りは「神農」の象徴であり、10センチ程の首振り式の「張り子の虎」である。少彦名神社から出される「神農さんの虎」は、虎の腹部に神農さんの紋の「薬」の朱印が押されている。

江戸時代後期の文政5年(1822)、大阪で疫病(コロリ、虎狼狸)が流行した際、道修町の薬種仲間が疫病除薬として虎の頭骨を混ぜて「虎頭殺鬼雄黄圓」という丸薬をつくり、張り子の虎を少彦名神社に供えて病除祈願をし、庶民に無料で配ったのが縁起物の張り子のトラの始まりとされている。神農祭が行われるとき、道修町全域がお祭り気分覆われる。この2日間は、普段は車の行き交う道修町の通りが通行止めになる。見上げる提灯には、各製薬メーカー、薬関係の企業の名前が入っている。鎮痛剤とか、胃薬とか、漢方薬とか、あるいは、試薬のような箱を吊るしている店もある。1日目の夕方になると、通りの両側にはずらりと数多くの縁日屋台(夜店)が立ち並ぶ。通常の薬問屋街(オフィス街)の通りの様子とはすっかり変わった感じがする。2日目(11月23日は祝日)には家族連れも含め、多くの参拝者が神社を訪れ、無病息災・家内安全を祈願するため参詣の順番を待ち並ぶ。神農祭の盛大さによって、今は明治からできた「少彦名神社」より「道修町の神農さん(しんのうさん)」のほうが親しまれている。

## ～結び～

中国医薬学の神様の神農氏が国境を超えて日本に早くから伝わり、日本の商業、医学や薬種商の守護神として長く、今も祀られている。

i) 「本草つうしん」は在校生のみに配布しております。

卒業後も購読をご希望される方は有料になりますので、お問い合わせ下さいますようお願い致します。

ii) HPを持っている方で、本草薬膳学院のHPにリンク貼りたい方は学院までご連絡下さい。ただし、HPの内容によっては掲載できない場合がありますので予めご了承下さい。